しばやま日和（びより）

このコーナーでは、町で行われたイベントなどを紹介します。

芝山に笑いを運んだ新春寄席

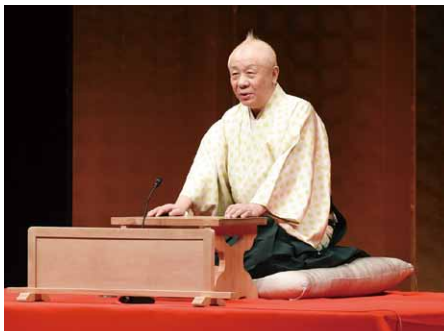
2月27日、芝山文化センターにおいて開催された「新春寄席」。豪華な出演者が落語や漫才、講談を披露し、会場を笑いで沸かせました。

初めに登場したのはパックンマックンのお二人。日米文化の違いを取り入れたボケや軽快なツッコミからなるユニークな掛け合いで笑いを誘いました。続いて登場した柳亭小痴楽さんは、落語の中に引き込まれるようなテンポの良い語り口でさまざまな登場人物を演じ、観客の心を掴みました。

後半に披露された神田織音さんの講談では、巧みに使われる張扇によって物語に臨場感を持たせる技に会場中が魅了されました。最後に登場したのは春風亭小朝さん。扇子や身体の動き、絶妙な間など、観客を引き付ける話術はまさに名人芸。会場はこの日一番の盛り上がりを見せ、大盛況の内に幕を閉じました。

▲パックンマックンのお二人

▲柳亭小痴楽さん


▲春風亭小朝さん

旧藪家住宅保存修理工事見学会

2月19日、芝山公園にある「旧藪家住宅（千葉県指定有形文化財）」の保存修理工事現場見学会が実施されました。当初の予定では、町民の方向けに広く公開する予定であった今回の見学会。新型コロナウイルス感染防止対策のため、博物館友の会会員やしばやま郷土史研究会の方など関係者のみの参加となりました。

見学会では、旧藪家住宅の修理工事の概要や実際に使用される資材・道具の説明などを聞いた参加者の皆さん。特に、茅葺屋根の修理については、事細かな説明だけでなく職人さんが実際に修理作業をする様子も見学することができました。

先人から伝わる知恵や工夫に感心し、職人さんの技術を間近で感じることができた貴重な一日。この体験を通して、あらためて古き良き建造物の素晴らしさを実感しました。

▶旧藪家住宅の内部を見学する様子

▶茅葺屋根の修理作業の様子

地域の味は格別味噌つき

３月４日、千代田分館調理室で実施された「味噌つき」。施設利用者として参加した地域の皆さんは、指導員の方の教えのもと自家製味噌を作りました。

約20kg分の味噌の原材料は、大豆６kg、糀（こうじ）６kg、塩2.5kg。おおまかな手順は大豆を加圧鍋で煮てから冷まし、各材料をよく混ぜ合わせて団子状にまとめながら容器に敷き詰めます。ポイントは空気が入らないように力を入れて押し込むこと。最後にしっかりと袋やキッチンペーパーで蓋をし、約半年間熟成させればおいしい味噌の出来上がりです。

令和４年度の申し込みについては、広報紙やホームページなどでお知らせします。

▲一つ一つの作業を丁寧に行う参加者の皆さん

第二保育所ひな祭り

３月３日、第二保育所において「ひな祭り」が行われ、３・４・５歳児がかわいい人間雛に変身しました。当日は、各クラスでひな祭りの由来などに関するお話を聞き「早く人間雛やりたい」と胸を弾ませていた子どもたち。

お雛様、お内裏様、三人官女、五人囃子それぞれの衣装や道具を身に付けると「きれいな色だね」「かわいいね」とうれしそうに話し、満面の笑顔で記念撮影をしました。

また、各クラスには、この日のために子どもたちが一生懸命作った雛人形などの制作が飾られ、保育所内を華やかに彩りました。

▲人形雛に変身した年長児

保健事業・子育て支援センター講座

２月17日に開催された「のびのびラッコ教室」。当日は、３組の親子が製作やふれあい遊びを楽しみました。

２月の製作では、節分にちなんで鬼の顔をシールで作り、周りに豆をイメージしたスタンプを押してかわいい作品が出来上がりました。ふれあい遊びではさまざまな歌を口ずさみながら、身体や手を動かし、親子ともに充実した時間を過ごしました。

▶元気にお返事できたよ！

３月９日、今年度最後の講座として開催された「お楽しみ会」。講座を盛り上げるべくお散歩にしゃんさんを招き、ウクレレ演奏や口笛によるコンサートを楽しみました。

また、参加者の皆さんにプレゼントされた「手作りの記念品」。支援センターに遊びに来た様子などを撮影した写真が使われており、１年を通した我が子の成長を感じることができました。

▶ウクレレ演奏を楽しむ様子